

大光寺村文書解題

白川部達夫氏から寄贈された大光寺村(現上越市三和区大)とその周辺地域伝来の690点余りの資料群である。白川部氏は近世農村経済史を専門とする歴史研究者で、東洋大学教授を退官するにあたり、研究のために収集した中から上越市関連の資料を当センターに寄贈された。

近世の庄屋文書が全体のおよそ3分の2を占めており、安永・明和・天明等1700年代後半期以降の物が多い。内容的には、検地帳、高反別帳等の土地の基本台帳、皆済目録等租税関連、上江用水の普請や割賦関連、村入用や飢饉時の嘆願書等の村政関連、土地問題など様々な出入訴訟関連の資料等多岐にわたっている。よくまとまって残されている特徴的な資料としては、庄屋等村役人選任や交替を巡る訴訟・出入に関する資料である(資料番号1490-30-1, 同31-1, 同33-1, 81-1, 119-1等)。大光寺村では天明の飢饉以降、村役人と小前百姓の出入が続き、毎年のように庄屋役交替願が出されたり、籤引きによる村役人選任・庄屋輪番制・庄屋隔番制が願い出られたりしている。これらの資料群は、天明の飢饉を契機に、村社会が大きく動揺していることを反映しているものと考えられる。

近代以降の資料は、明治以降の土地の売買、地主小作契約、借入金・貸付金、用水関連等の資料が多く、手習いや受領書、勘定書等の資料も若干数含まれている。

以下の資料は、近世大光寺村の多様な日々の暮らしの様子をよく表した資料の一例である。

- ・文化14年(1817)「卯年雨乞割賦帳」〔資料番号1490-78-1〕…戸隠神社への雨乞祈祷のための代表者参詣経費等175匁余の今保村、三村新田、村岡村、大光寺村への割賦帳である。農業が現代よりも天候に大きく左右され、村の成立に直結する状況をよく示した資料である。
- ・文政7年(1824)7月付「乍恐以書付御届奉申上候」〔資料番号1490-90-1〕…大光寺村地内から湯が湧き出たことにより、さらに沸かし湯をして風呂屋営業を行いたい旨の届け出文書である。「百姓手透」としてすぐに現金収入を得たい心情がよく表れている資料である。
- ・天保4年(1833)11月付「乍恐以書付奉歎願候」〔資料番号1490-100-1〕…三村新田、大光寺村、村岡村等15か村の庄屋、長百姓が奉行所に出した嘆願書の控である。長年の悪作続きのため上納の3分の1は金納とし残りの3分の2を10か年の年賦としてほしい旨を訴え出ている。天保4年から始まった「天保の飢饉」の凶作下の村の状況をよく映しだした資料である。
- ・天保15年(1844)11月付「乍恐以書付奉願上候」…大光寺村百姓六兵衛が、川浦御役所に届けるよう上納金5両を下男に託したところ、下男が博奕宿で使い果たしてしまった顛末を記し、上納金の日延べを願い出ている。度々禁制が出され、村極でも村追放等の重い処分が科されていた博奕だが、簡単には無くすことができなかつた当時の世相がよく分かる資料である。